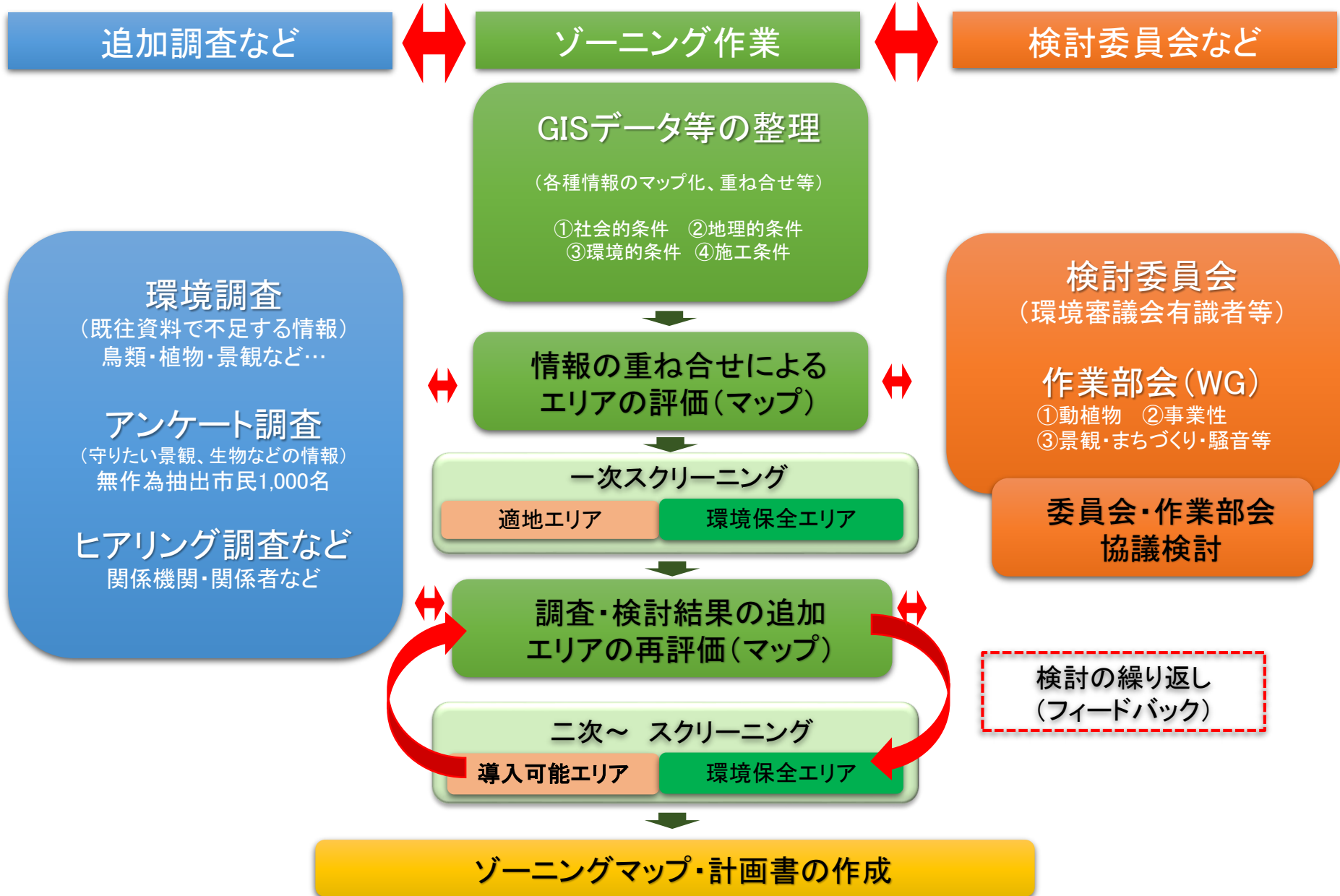


風力発電ゾーニング手法検討委員会

ゾーニング手法検討の進捗等報告

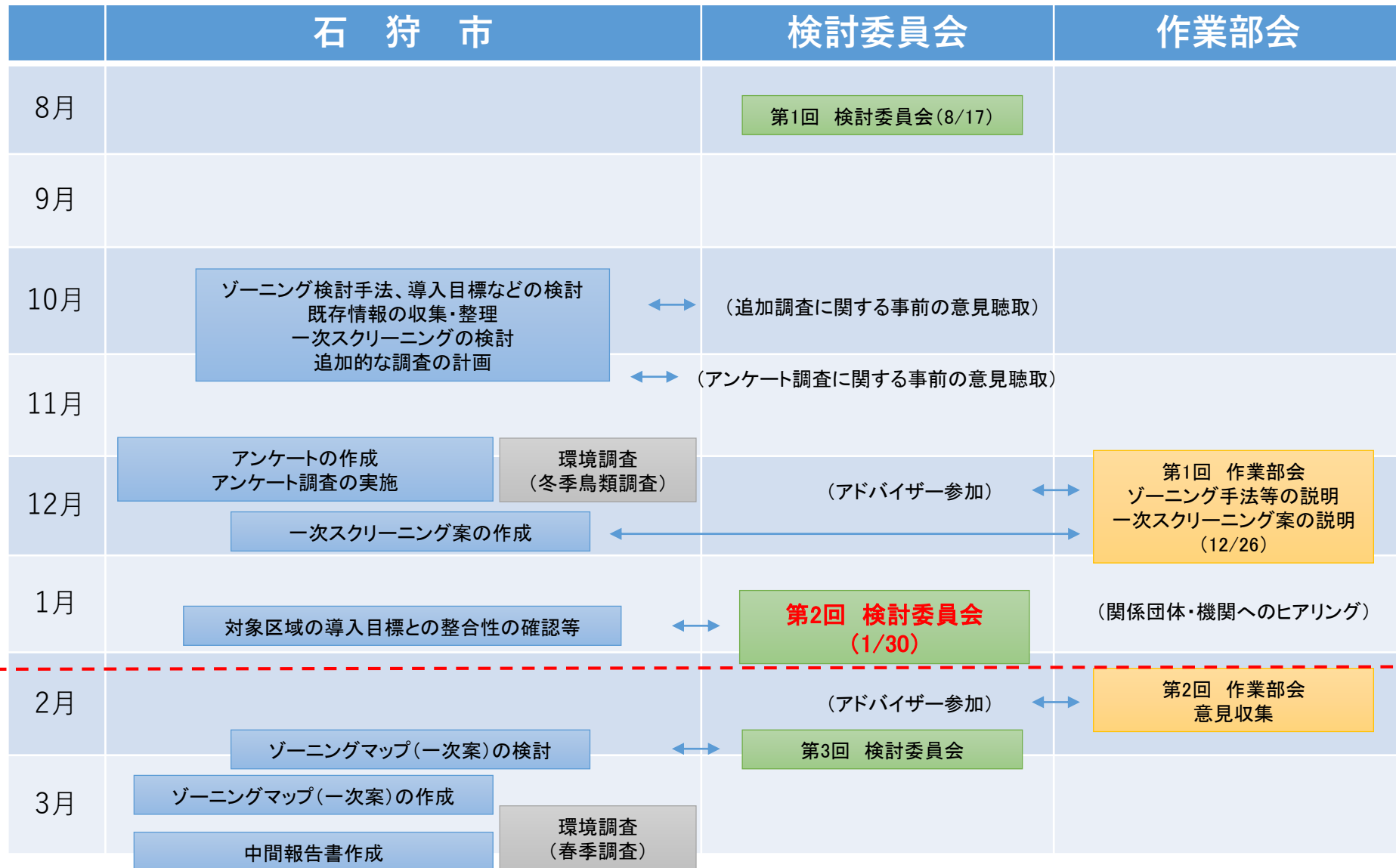
H30.1.30 第2回 検討委員会資料

ゾーニングの実施フロー



実施スケジュール（実施・予定）

平成29年度



実施スケジュール（予定） 平成30年度

	石 狩 市	検討委員会	作業部会
4月			
	環境調査 (春季調査)		
5月	有識者からの意見聴取		(関係団体・機関へのヒアリング)
6月	関係者・関係機関の抽出と調整		
7月	エリア毎の事業実施上の課題抽出	環境調査 (夏季調査)	第3回 作業部会 意見収集
		(アドバイザー参加)	↔
8月	ゾーニングマップ二次案の作成		(関係団体・機関へのヒアリング)
9月	ゾーニングマップ最終案の検討	↔	第4回 検討委員会
10月	ゾーニングマップ最終案の作成	環境調査 (秋季調査)	
		(環境調査結果に関する意見聴取)	
11月	ゾーニング結果を用いた環境配慮方策及び 立地促進などの検討	↔	第5回 検討委員会
12月	ゾーニング結果のまとめ		
1月	ゾーニング計画書案の検討	↔	第6回 検討委員会
2月	ゾーニング計画書の作成	↔	第7回 検討委員会
3月			

既往環境影響評価図書の活用

石狩湾新港地区を中心に石狩市内では、既設・建設、計画中の風力発電事業が複数あり、これら事業に先立つ環境アセスメント調査として、環境調査が実施されている。

これら環境調査結果について、鳥類の生息や重要な動植物の分布状況など、地域の環境情報としてゾーニングの基礎資料として活用する。

No.	図書名	事業者	図書種別	設置位置	発電機規格 発電基数	環境影響評価項目																	
						大気		騒音・振動		水質		その他環境		動物		植物		生態系		景観		人触れ	
						文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査	文献調査	現地調査
①	石狩湾新港風力発電所に係る 環境影響評価書 平成28年7月	エコ・パワー株式会社	評価書	陸上	3,300kW 3基	-	-	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	
②	(仮称) 八の沢風力発電事業に 係る環境影響評価準備書 平成28年3月	株式会社 斐太工務店	準備書	陸上	3,000kW 7基	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
③	(仮称) 石狩湾新港洋上風力発 電事業環境影響評価準備書 平成28年4月	株式会社グリーンパ ワーインベストメント	準備書	洋上	4,000kW 26基	-	-	-	○	-	○	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
④	石狩コミュニティウインド ファーム事業環境影響評価書 平成29年2月	株式会社市民風力発電	評価書	陸上	3,200kW 7基	-	○	-	○	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑤	銭函風力発電事業に係わる環境 影響評価書 平成29年1月	銭函ウインドファーム 合同会社	評価書	陸上	3,400kW 10基	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑥	(仮称) 石狩望来風力発電事業 環境影響評価方法書 平成29年11月	望来古平風力発電株式 会社	方法書 (自主ア セス)	陸上	2基	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-

※：表中の発電機規格、基数等は環境影響評価図書に示された事業計画を示す。 番号は次項の図中番号に対応する。

市内等の風力発電事業の状況（建設中及び計画中）



市内等の風力発電事業の状況（既設）



環境調査の実施状況

— 既存資料による石狩市の環境の現状把握の補完として現地調査を実施 —

- 今年度は冬季及び春季の鳥類調査を予定
- 冬季鳥類調査はウミワシ類の渡りを想定し12月上旬に定点調査を実施
- このほかスポットセンサス調査（10分間程度の比較的短時間の調査を多地点で実施する方法）を予定
- 春季の調査時期については鳥類の動態を見極めながら柔軟に対応

【ウミワシ類定点調査結果概要】

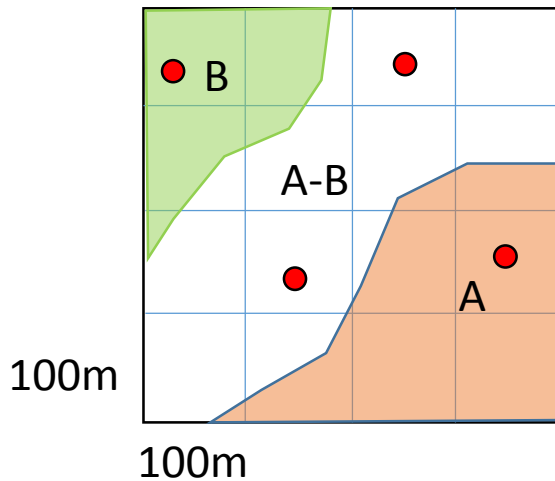
- 主に海上や海岸段丘の海沿い周辺を南下するオジロワシ及びオオワシが確認され、これらの飛翔高度は、高度M～高度Hの高度をとるものが多く、特に段丘の尾根付近では高度Mでの飛翔がよくみられた。また、石狩川に近くなると北方向への飛翔も比較のみられたが、これは石狩川周辺に滞在する個体の飛翔が確認されたためと推察される。
- 河川沿い周辺の内陸側では海沿い周辺に比べて飛翔の確認は少ないものの、居着き個体やペアによる飛翔、ねぐら入りする個体等の飛翔が確認され、高度Lでの飛翔が比較的多くみられた。

※高度M：概ね地上30～130m 高度H：地上130m越 高度L：地上30m未満

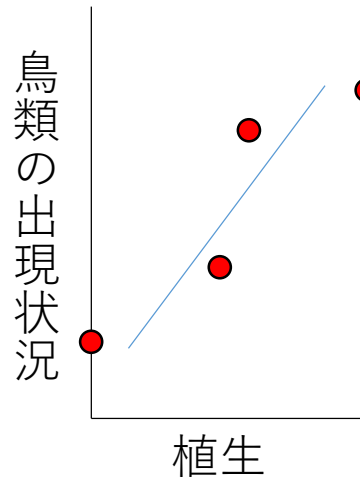
環境調査の実施状況（2/2）

【限られた調査地点の“点”データからな面的なマップを作成するために】

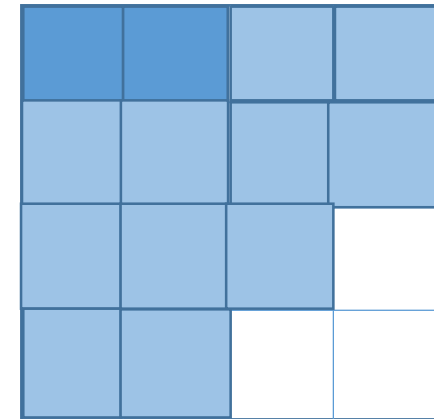
- 植生等の環境要素と鳥類の出現状況を関数化、調査データの無いエリアについても環境要素の比率から推定値を色塗り。



環境要素を勘案し調査地点を配置



統計的手法により鳥類と環境要素との関係を関数化



メッシュ単位で鳥類の出現状況を推定、色塗り

【その他の調査の方針】

- 植生：環境省自然環境保全基礎調査1/2.5万植生図があるものの最新ではないため、衛星画像（SPOT6/7；地上解像度1.5m）からの判読を試みる
- 海域生態系：漁協ヒアリング等により概要把握した上で、現地調査等の必要性を検討